

東日本地域の大学・短大・高専の教育改善を推進する

FD ネットワーク “つばさ”

Innovation on Higher Education in East Japan

研 究 年 報

2022

山形大学教育開発連携支援センター

目 次

目 次

第1章 令和4年度実施事業	1
第2章 加盟校による令和4年度のFD活動	3
第3章 FD協議会	23
FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧	25

第1章

令和4年度実施事業

令和4年度実施事業

FDネットワーク“つばさ”では、48校の大学・短大・高専の連携により、以下のFD事業を実施した。

1 事業報告

(1)FDワークショップ

【開催日】令和4年9月22日(木)

Zoomによるオンライン開催

第1部 基調講演

演題:「千葉商科大学の自然エネルギー100%大学プロジェクト」

講師:田中 信一郎 氏

千葉商科大学 基盤教育機構 准教授

第2部 ラウンドテーブル

第1分科会

「キャンパスでのカーボンニュートラル」

コーディネーター:学術研究院教授(理学部主担当) 教授 栗山 恭直

パネリスト:山形大学施設部施設企画課

施設運用・安全担当上席係長 白川 洋

第2分科会

「直接評価指標を用いた授業・カリキュラム改善の実践」

コーディネーター:山形大学学士課程基盤教育機構 教授 千代 勝実

パネリスト:山形大学法人本部 教授 浅野 茂

山形大学学士課程基盤教育機構 准教授 飯島 隆広

同上 准教授 安田淳一郎

同上 准教授 白石 哲也

第3分科会

「学生エンゲージメントと校友組織の存在意義」

コーディネーター:山形大学校友会事務局長 樋口 浩朗

パネリスト:笑屋株式会社 代表取締役 真田 幸次

山形大学理学部4年

学生サークル「Team 道草」前代表 秋保 恭平

【参加者】29名

(2)FD協議会

○第29回FD協議会

【開催日】令和4年6月28日(火)

Zoomによるオンライン開催

【内容】

第1部 協議会

第2部 事例紹介

「令和4年度学生FD会議について」

北翔大学 教育文化学部芸術学科 教授

FD支援委員会 委員長 松澤 衛

学生FD 北翔アンビエント 眞鍋 有希

【参加者】41名

(3)その他

・週間・授業改善ルーエッセー

第2章

加盟校による 令和4年度のFD活動

北里大学

高等教育開発センター長 江川 徹

本学では、全学のFD活動を、大学の附属施設の一つである「高等教育開発センター」が中心となって実施している。2022年度は同センターにおいて、以下の事業を実施した。前年度までと比べ、行事の開催が必ずしもオンライン一辺倒ではなくなってきたおり、また、「コロナ後」を見据えた活動も行なっている。

1. 講演会・研修会等の開催

(1) FD講演会（参加者：動画閲覧者を含め87名）

2022年7月27日（水）に、本学一般教育部の前田崇准教授による講演会「学生による授業アンケートを再考する—より良い活用に向けて—」が対面（遠隔地キャンパスへは同時中継）で開かれた。大学における授業アンケートそのものは既に定着しており、今はその実効的な活用が問われるようになってはいるが、具体的な手法が確立されているとは言えない状況である。この講演では、授業アンケートの基本事項と一般的な活用方法、さらにはその限界や批判が紹介された。

(2) 新任教員研修会の開催（参加者：36名）

2022年8月9日（火）・10日（水）の2日間、人事部との共催で、開催した。実施方式は昨年までと同様Zoomによるものとなった。

1日目は理事長及び学長による本法人や本学の現況、本学の教員としての心構えなどについての講話ののち、外部トレーナーによる研修『教員としてのコミュニケーション能力に磨きをかける』を行い、対人コミュニケーションの傾向や場面や状況に応じた表現方法を学び、最後に目指す教員像についてディスカッションなどを行った。

2日目の午前には2名の学内教員による「最近の学生気質と学生相談の傾向」「学生調査結果に見る本学の学生像」の講演が行われた。午後からはZoomのブレイクアウトルームにより、午前の講演を受けた「学生とどう向き合うか」についてのグループワークを行なった。

(3) 北里大学高等教育開発センター講演会（参加者：51名）

2023年2月20日（月）にセンター講演会「アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会」が、

対面（遠隔地キャンパスへは同時中継）により開催され、学内の2名の教員により、LMSの活用事例や、オンライン教材の作成手法などが報告された。これらはいずれも、コロナ終息後を見据えた授業における、ネットワークの活用に関するもので、多くの教員の参考となった。

(4) Moodle講習会

高等教育開発センターでは学内向け教育支援システムとしてMoodleを提供しており、その使用方法の講習会も毎年行っている。2022年度は2023年3月17日（金）に、対面を基本とし、一部の参加者にはオンラインで実施される。本学でのMoodleの利用は2023年度までとなる可能性があり、その場合は今回が最後の講習会となる。

2. アンケート等の実施

(1) 学修等アンケート

2022年度の全学部学生を対象に、学生の学習、大学生活の実態と意識を調査分析し、教学運営や学内生活環境の改善を目的とするアンケートを実施した（実施期間：2022年11月～2023年1月）。実施方法は昨年を踏襲し、オンラインとした。今回は回答率の向上を期待し、回答学生から抽選で30名に3000円のギフトカードを贈呈した。

3. 冊子等の発行

(1) レポート作成のためのガイドライン

例年通り、レポートの書き方に悩む学生のために、小冊子『レポート作成のためのガイドライン』を発行し、2022年度入学者全員に配付した。

(2) 年報

2021年度北里大学高等教育開発センター年報を発行した。本年報にはセンターの活動実績の概要のほか、上記2. (1)の「北里大学における学修等に関するアンケート」の調査結果等も掲載しており、今後の教育改善に活用する。

(3) 叢書

上記1. (1)の「学生による授業アンケートを再考する—より良い活用に向けて—」について叢書を発行し、1. (3)の「アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会」についても叢書を発行する予定である。

帝京平成大学

FD委員会委員長 小松俊哉

I. はじめに

本学は東京都と千葉県に4キャンパスを有する5学部18学科からなる総学生数約1万人の総合大学であり、「実学」の精神を基とする建学の精神に則り、医療・健康・福祉・教育・経営・情報等の分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。以下、本年度の本学におけるFD活動についてその概要を報告する。

II. FD委員会の年間活動方針

本年度の第1回FD委員会において、以下の「年間活動方針」を決定し、それに基づき種々の取り組みを行った。

- ① キャンパス横断的な全学的FD活動推進の取り組み
- ② 各キャンパスのFD委員会機能の活性化
- ③ 学生の主体的・能動的学びを促す授業への積極的な取り組み
- ④ ICTを活用した効果的・効率的な授業への積極的な取り組み
- ⑤ 授業改善に資する情報の収集・分析への組織的な取り組み
- ⑥ FD活動とSD活動の協働・連携を前提とした活性化
- ⑦ 教務委員会及び教学マネジメント室との連携強化

III. FD活動関連の恒常的な取り組み

1) 公開研究授業

本学では、原則1教員あたり年間1回以上、授業を公開することとしている。授業参観者・公開者のアンケートの回収には、学修支援システムmanaba(株式会社朝日ネット)を利用した。キャンパス毎の公開授業数、公開期間、参観者数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：78, 6月13日～6月24日, 267
 中野1Q：27, 5月16日～5月27日, 34
 中野&2Q：100, 6月13日～6月25日, 199
 千葉：49, 6月13日～6月25日, 143

【後期】

池袋：61, 11月7日～11月18日, 248
 中野3Q：18, 9月26日～10月7日, 14
 中野&4Q：82, 11月24日～12月1日, 133
 千葉：50, 11月7日～11月19日, 168

2) 「学生による授業評価」アンケート

本学では、原則、全開講科目についてアンケートを実施しており、学生ポータルサイトUNIVERSAL PASSPORT(日本システム技術株式会社)上で実施し

た。リフレクション・シートについても同システム上で実施した。キャンパスごとの実施時期、実施科目数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：7月8日～7月31日, 579
 中野1Q：5月23日～6月5日, 22
 中野&2Q：7月8日～7月31日, 853
 千葉：7月8日～7月31日, 394

【後期】

池袋：12月1日～1月8日, 649
 中野3Q：10月28日～11月13日, 20
 中野&4Q：12月1日～1月8日, 928
 千葉：12月1日～1月8日, 367

3) FD/SD研修会

- ① 対面およびTeams配信での講演と、学修支援システムmanaba上でのオンデマンド視聴との併用で、第1回FD/SD研修会を開催した。
 - ・講演およびライブ配信日：12月22日
 - ・オンデマンド配信日12月27日～1月31日
 - 内容：「こころの危機に気付くサインキャッチセミナー」
- ② 対面およびTeams配信での講演と、学修支援システムmanaba上でのオンデマンド視聴との併用で、第2回FD/SD研修会を開催した。
 - ・講演およびライブ配信日：2月28日
 - ・オンデマンド配信日3月6日～3月31日
 - 内容：「発達障害特性のある大学生の基本的な理解と対応について」

IV. 学外研究会・講演会等への参加と学内での情報共有

1) FDネットワーク“つばさ”関係

- ① 第29回FDネットワーク“つばさ”FD協議会
6月28日、オンライン開催。FD委員長と事務局FD担当者が参加した。
- ② 第7回「週刊・授業改善エッセイ」
FD副委員長が「公開研究授業の振り返りアンケートより」というタイトルで寄稿した。
(URL:https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsu_basa/essei/04-07.html)
- ④ FDネットワーク“つばさ”研究年報
3月31日、FD委員長が寄稿した。

2) 私立大学情報教育協会関係

- ① 私立大学情報教育協会総会等
3月28日, 5月31日, 11月30日の総会に本学代表

者が出席した。

②第1回データサイエンス・AI授業実践研究ワークショップ

6月30日、オンラインにて「文系学生に配慮したデータサイエンス教育を考える」をテーマとし開催され、FD副委員長、FD委員2名が参加した。

③第2回データサイエンス・AI授業実践研究ワークショップ

8月4日、オンラインにて「文系学生向けデータサイエンス授業の実践事例紹介」をテーマとして開催され、FD委員2名が参加した。

④2022年度ICT利用による教育改善研究発表会

8月25日にオンラインにて開催され、本学教員が「地域産学協働によるゴルフ場でのPBIの取組みとICTを活用したモニタリングの試み」と題して発表し、また、FD委員2名が参加した。

⑤2022年度教育イノベーション大会

9月6日～8日にオンラインにて開催され、FD副委員長、FD委員2名が参加した。

⑥令和4年度産学連携事業「大学教員の企業現場研修」

2月16日にオンラインにて開催され、FD委員1名が参加した。

⑦2022年度FDのための情報技術研究講習会

2月27日にオンラインにて開催され、FD委員1名が参加した。

3) 日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)関係

①2022年度第2回オンライン授業に関するJMOOCワークショップ

7月24日に「SDGsのオープン教育リソースを組み込んでキャリア教育の授業をつくる」をテーマにオンライン開催され、FD委員1名が参加した。

②2022年度第3回オンライン授業に関するJMOOCワークショップ

8月29日に「大学教育をリフレクションする：アウトカムと評価」をテーマにオンライン開催され、FD委員1名が参加した。

4) その他

①全国私立大学FD連携フォーラムシンポジウム

6月18日にオンライン開催され、FD副委員長、FD委員2名が参加した。

V. 「FD NEWSLETTER」

本学FD活動に係るニュースレターを2023年3月31日に刊行した。

仙台青葉学院短期大学

FD・SD委員会 副委員長 高野 斉

本学は、令和3年度に「言語聴覚学科」が新設され3キャンパス9学科の体制となった。また令和5年度には、新キャンパスの竣工と「救急救命学科」の新設により、全部で4キャンパス10学科の体制となる。

1. FD・SD研修会の開催

FD・SD研修は、全教職員を対象とする全学研修会と、各学科独自の研修会が開催されており、外部研修への参加も積極的に行われている。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催方法としてはZoom等のオンライン研修が主流であったが、令和4年度は、対面研修と録画によるオンデマンド研修のハイブリッド開催の割合が増えた。

令和4年度における全学の教職員対象の研修会については、以下の通り実施されている。

1) 全学FD研修会

『遠隔授業に対する学生の“思い”の可視化 ～計量テキスト分析による授業改善アンケートの活用～』
 <講師> 観光ビジネス学科 佐藤美輪先生、栄養学科 平澤和樹先生

2) 全学SD・IR研修会

『データから考える中退を防ぐ方法』
 <講師> 朝日中退予防ネットワーク委員、嘉悦大学経営経済学部教授兼FD・IR推進室室長 白鳥成彦先生



3) 全学ハラスメント研修会

『事例から考えるハラスメント防止につながる対応』
 <講師> 東北大学高度教養教育・学生支援機構 学生相談・特別支援センター副センター長 教授 池田忠義先生

4) 学内研究発表会

①『過敏性腸症候群と運動機能』
 <研究発表者> リハビリテーション学科 小関友記先生

②『コロナ禍における授業形式の変化と学生意識への影響』

<研究発表者> 歯科衛生学科・大宮由布子先生、ビジネスキャリア学科・今井恵美子先生、観光ビジネス学科・朴賢淑先生

5) 研究推進研修会

『研究デザインの基礎・仮説の設定と統計の解釈について』

<講師> 仙台白百合女子大学 人間学部健康栄養学科 公衆衛生学研究室 教授 鈴木寿則先生

6) シラバス作成要領FDのオンデマンド配信

対面でのFD受講ができない教員が個別で受講できるよう、全学教務委員会と協力し、シラバス作成要領の解説動画を作成し、オンデマンド配信した。

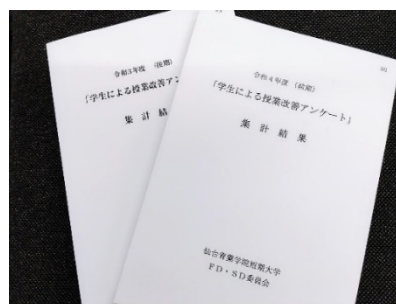
2. 授業改善アンケートの実施

学生による授業改善アンケートについては、一部の学外実習等を除くほぼ全科目について実施している。

各科目のアンケート結果（自由記述も含む）は、学科長から教員へフィードバックされ、各教員はその結果に対する感想や改善策を学科長へ報告する。学科長はその結果を「学科長考察」として取りまとめる。

全学のアンケート結果は、レーダーチャート等の分析資料とともに冊子化して各学科に配布し、各キャンパスの図書館や事務室などにも配置してある。

マークシート方式からLMSに切り替えたため回収率が6割台となっているのが課題である。



3. 今後のFD・SD活動について

新型コロナが第5類感染症に移行するため、今後は対面でのFD・SD研修会を積極的に開催したい。特に2019年に開催した後、コロナ禍で延期となっている「学生が参画するFD」の開催を実現したい。

また授業改善アンケートについても、学生の貴重な意見を埋没させないよう、データ分析を継続して実施していきたいと考えている。

山形県立保健医療大学

研究・研修委員会 村 成幸

本学は、研究・研修委員会において、「FD・SD研修会」等を企画し、実施している。今年度も1；Covid-19の感染拡大状況の先行きが見えない。2；オンラインの方が参加しやすい。3；録画を行いオンデマンド方式で当日不参加でも聴講可能との判断から、Zoomにより実施した。

1 FD・SD研修会

(1) 第1回(参加者61名):2022年5月31日に、今年度より東北大学から着任した上月正博学長により「興味とミッションにどう折り合いをつけるか:ある教員の研究の軌跡から」というタイトルで開催した。これまでの学長の豊富な研究歴を通して得た知見と研究への信念、覚悟、楽しさを学んだ。また研究結果が思うように進まない時にどのように考えるか、トラブルシューティングを学んだ。

(2) 第2回(大学院生含む参加者46名):2022年10月25日に、本学理学療法学科 石川仁教授により「有意差検定におけるP値に備える」というタイトルで開催した。P<0.05の意味、P>0.05の際に「有意差なし」と結論づけるのは早急であること、信頼区間を示すこと、ベイズ統計学の手法を用いた論文が急増していることを学んだ。研究者にとっては、必須である最新の統計学を学ぶ良い機会となった。

(3) 第3回(参加者数48名):2023年2月14日に、山形県みらい企画創造部企画調整課 主査 横澤遼氏により「山形県におけるSDGsの取組み」というタイトルで開催した。SDGsとは何か、意義、山形県の取組みについて学んだ。また研修会后、行政と大学のSDGsに係る連携の事例紹介があった。本学教職員がSDGsを理解し、考え、1人ひとりがSDGsについて取り組むきっかけとなった。

2 教員研究セミナー

本学では、開学当初から各教員の研究テーマについてセミナー形式で話題提供をしてもらい、教員の研究意欲と資質の向上を図っている。

第1回 6/14 参加者54名 学内オンデマンド配信
 科研費研究申請調書審査員として経験があり、長年に渡り科研費を獲得してきた本学の上月学長により「科研費獲

得に向けて」というタイトルで行った。

第2回 7/19 参加者48名 学内オンデマンド配信
 昨年度から科研費公募の日程に変更があったことなどから、申請スケジュール、科研費研究申請調書記入上の注意について事務局職員から教員に説明する「科研費公募説明会」及び研究倫理教育責任者(研究担当理事)による「研究倫理研修会」を開催した。オンデマンド配信を行うことで教員全員が研究倫理研修会を受講した。

第3回 9/16 参加者41名・山形県庁から5名
 令和3年度に採択した共同研究の発表会を行い、山形県の政策テーマに基づく2題を含む各学科の共同研究5題の発表と質疑応答を行った。

第4回 11/29 参加者45名
 看護学科、作業療法学科の教員による研究発表が行われ、活発な討論がなされた。

第5回 2/14 参加者48名
 看護学科、理学療法学科の教員による研究発表が行われ、活発な討論がなされた。

3 教員相互の授業評価

例年、学内教員の授業科目を対象に教員相互の授業評価を行っている。7月と11月に講義訪問週間を設定し、参加向上を図っている。後期は5件の回答があった。他の教員の授業を聞く良い機会であったとの反面、評価することに違和感を覚えるとの意見もあった。他の教員の授業を聞くことで教員の質の向上という観点で感想を述べるという方向で行えば幅広く授業評価を行えるのではないかと意見がなされた。

山形県立米沢栄養大学 山形県立米沢女子短期大学

自己評価改善・SDFD委員会委員長 安部 貴洋

山形県立米沢栄養大学と山形県立米沢女子短期大学では、教職員を対象とした研修会や活動を基本的に合同で行っている。今年度は以下のような研修会・活動を行った。

令和4年度の研修会・活動

- 4月 情報セキュリティ研修会（「情報セキュリティの脅威から身を守る」をテーマに外部講師による対面研修会）、障害学生支援研修会（対面、詳細は後述）
 - 5月 研究倫理コンプライアンス研修会（短大、オンデマンド）
 - 6月 前期学生の声アンケート（7月末に学生へ回答）
 - 7月 前期授業評価アンケート（集中講義のアンケートは8月に実施）
 - 8月 外部資金獲得セミナー（「外部資金獲得推進に向けて」「私の外部資金応募申請書作成プロセス」をテーマに学内の講師によるオンライン研修会）、研究倫理コンプライアンス研修会（栄養大、オンライン）
 - 9月 SD研修会（オンライン、詳細は後述）
 - 10月 AED研修会（オンデマンド）
 - 11月 後期学生の声アンケート（学生への回答は12月末）
 - 12月 学生と理事との懇談会（対面）、後期授業評価アンケート（集中講義のアンケートは2月に実施）、授業改善ワークショップ（短大、メール）
 - 2月 ハラスメント防止研修会（ハイブリッド、詳細は後述）
 - 3月 授業改善ワークショップ（栄養大、オンライン、詳細は後述）
- *授業改善につながるように授業評価アンケートの項目、文言等の見直しも行った。

令和4年度の研修会の特徴

令和4年度の研修会の特徴として「学生の成長の保障の充実」をあげることができるように思える。

4月には「聴覚障がい学生支援」をテーマに研修会を行っている。山形大学障がい学習支援センターの有海順子氏を講師にお迎えし、「聴覚障がい」に関する基本的な事柄を理解するとともに、支援のあり方、特に講義時における支援のあり方を具体的に学んだ。この研修会は「聴覚障がい」のある学生支援を目的とするものだが、「聴覚障がい」を通してよりよい授業とは何かを考え、これまでの講義の

あり方を振り返るためのきっかけともなる研修会であった。

9月には共愛学園前橋国際大学・短期大学部学長大森昭生氏を講師にお迎えし、「ここにしかない学びを求めて～選ばれる大学になるための地学一体と教学マネジメント～」と題する講演をオンラインで行っていただいた。地域と大学が一体となって学生の成長をいかに保障するか、そのために教学マネジメントはどのようにあるべきか等、共愛学園前橋国際大学・短期大学部における実践を通してお話しいただいた。

2月には、山形大学学術研究院の中澤未美子氏をお迎えし「ハラスメントのない大学コミュニティづくり～メンタルヘルスケアの観点から～」というテーマで講演を対面で行っていただき、ワークと質疑応答からなる研修会を行った。（オンラインでの参加も可能とした。）具体的なワークを通して多様な意見を知ることの楽しさを感じるとともに、学生の成長の土台となる大学コミュニティのあり方を学んだ。



＜ハラスメント防止研修会の様子＞

3月には大阪大学キャリアセンター副センター長である家島明彦氏を講師にお迎えし「学生の成長と授業改善」と題する講演をオンラインで行った。コロナ対策が大きな転換点を迎えるにあたり、FDの意義、授業とは何か等の基本的な事柄を確認するとともに、オンライン授業の今後のあり方等についてお話しいただいた。本研修会は栄養大中心であったが短大の先生方にもご参加いただいた。

令和5年度の課題

このように令和4年度の研修会では学生の成長を保障するためのあり方を様々な視点、レベルから学んだ点に特徴があるように思える。しかし、様々な視点やレベルが統一的に捉えられているか、個々の研修会が体系的なものとなっていくか、さらには実践へと結びついたものとなっているか、これらのことを検討し改善へとつなげることが今後の課題となる。

札幌学院大学

令和4年度の活動について

今年度のFD活動も、コロナ禍のため、教職員が一同に介して行う情報交換や、外部講師を招聘した講演会などの活動は行わず、オンラインを中心とした活動となった。また、年2回の授業評価アンケートは、Web調査によって実施した。

授業評価アンケートは履修者6名以上の全学部開講科目を対象として、Web調査による授業評価アンケートを実施している。Webでの調査は、回答者の利便性向上が図れることや集計作業においても負担軽減に繋がるが、回収率が低い点が問題であった。今年度は回収率向上のため、「講義内で10分程度回答の時間を確保し、回答を行わせる」などの方法を教員へ提案し実施した。その結果、昨年度より回収率を向上させることができ、効果がみられた。しかし、未だ、回収率は低いいため、今後もアンケートの周知方法や実施方法も含めて検討を行う。

校内FD活動としては、継続事業も含めて、以下の取り組みを行った。

(1) FDを推進するための活動補助事業

積極的に授業改善に取り組もうとする教員の動機づけを促すとともに、実践の中から得たノウハウや知見を全学的に共有することによって、大学全体の教育の質向上を図ることを目的とした事業である。今年度は2件の応募があり、教育改善に寄与することができた。取り組み内容は年度末に活動報告会を行う予定である。

(2) 各学部学科における10分FDの充実

各学部教授会や学科会議等の会議時間を活用して「10分FD」を実施している。授業運営等、教員の教育力向上を図るとともに学部・学科間の教育上の情報共有を行うことを主眼としている。10分FD実施後は、報告書を作成・提出を求めるとともに、FD充実の一つとして、報告を全学部学科で共有した。

(3) 学生相談室活動報告・情報交換会 FD/SD研修会
遠隔授業に関するFD研究会として学生相談室主催の前期、後期に開催を行い、事例を通して学生対応についてもディスカッションを行うことができた。

(4) 発達障害のある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会

昨年度に引き続き、非常勤教職員を含む全教職員に向けて、アクセシビリティ推進委員会主催のFD/SD研修会をオンライン開催した。全教職員が参加できるよう、研修会はオンデマンド配信も行った。

(5) 広報入試課 FD/SD研修会

広報入試課主催のFD/SD研修会をオンライン開催した。全教職員が参加できるよう、研修会はオンデマンド配信も行った。

(6) 授業評価アンケートを活用した取組み報告会

教員同士が授業評価アンケート結果を基にした取組みの内容や改善を検討していること等を共有し、授業改善に活かしていくことを目的として実施し、2名の教員から報告が行われた。工夫している授業内容、方法、使用ツールなど具体的な授業改善の取組み事例を教員間で共有できる大変有意義な機会であり、今後もその活用が可視化された取組みを継続することが非常に重要であると認識している。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上分類の「5類」へ移行することに伴い、来年度は対面での活動が増えていくのかは今後の検討事項であるが、どんな状況においても、学びや活動や止めず、FD活動の継続も行うとともに、学生たちの意見を取り入れた仕組みづくりを引き続き検討し、少しでも教育効果が上がるよう学びの環境を整えていきたいと考える。また、各教員の取り組みや工夫を共有し、来年度の授業改善につながることを期待している。

<主なFD活動>

- ・7月 前期授業評価アンケート実施
- ・7月28日(木) 発達障害のある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会【教職員112名参加】
- ・7月28日(木) 広報入試課 FD/SD研修会(「入口」から「中身」「出口」へ、「中身」「出口」から「入口」へ展開するために)【教職員53名参加】
- ・8月31日(水) 学生相談室前期活動報告・情報交換会FD/SD研修会(学におけるLGBTQ学生への対応—知識と理解を深める—)【教職員50名参加】
- ・12月下旬~1月下旬 後期授業評価アンケート実施
- ・2月中旬~3月末 令和5(2023)年度「FDを推進するための補助事業」募集開始
- ・3月1日(水) 学生相談室活動報告・情報交換会FD/SD研修会(今、私たち教職員は学生にどのように寄り添えるか~事例を振り返り来年度につなげる~)【教職員41名参加】
- ・3月13日(月) 授業評価アンケートを活用した取組み報告会【教職員21名参加】
- ・3月24日(金) 令和4(2022)年度FDを推進するための活動補助事業&FDフォーラム報告会(開催予定)

鶴岡工業高等専門学校

教育改革FD委員会 森永 隆志

1. FD活動の基本方針と年間活動項目

～対面による講義と学生指導への対応を中心に～

今年度の本校の授業運用形態としては、昨年度と同様に可能な限り対面授業での対応を行いつつ、効果的に運用が為されていた一部の遠隔授業については引き続き遠隔での実施を認め、ハイブリッド型の時間割編成を取っていた。本校では現在でもTeamsの運用は続けられており、学生全体への情報共有、個別の連絡などに欠かせないツールとして、全教職員に定着し、授業や担任業務などの大幅な効率化に繋がっている。

令和4年度のFD関連活動は以下の通りである。

- 4月 新任教員研修（4月着任教員対象）
- 5月 学級担任ガイダンス
- 9月 前期開講授業アンケート
- 11月 ピアサポーター育成に関するSD研修
教員相互による授業参観
- 3月 後期開講授業アンケート
FD研修会（学生指導に関するグループワーク）
教育資料の点検／卒業研究ノート
保存資料（答案・レポート等）の点検

今年度からの新しい試みとして、ピアサポート活動の推進にも注力した。具体的には、学生間の助け合いによる学習支援の場として「自学自習スペース」を開室し、そこにピアサポーター学生を配置して日常的な学習支援を行う体制を構築した。特に重要な役割を担うピアサポーター学生に対しては、SD研修を企画し約20名の学生が受講し、ピアサポーターとしての心構えや役割についての認識を共有することができた。

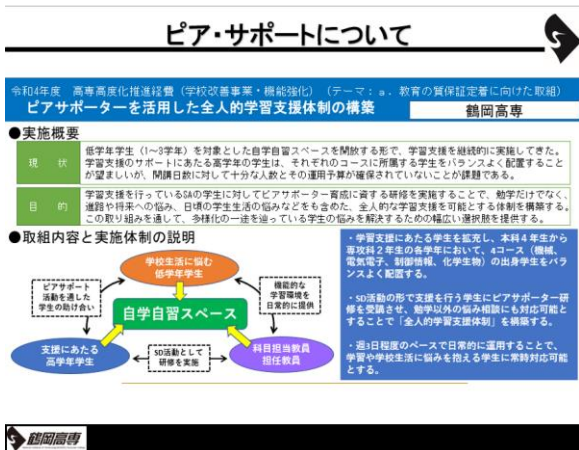


図1. ピアサポーター育成に関するSD研修資料①

自学自習スペースの運用について

- ・ 8号館3階を会場とする
- パーティションで区切りを入れて、左側が私語厳禁、右側が相談OKとする
- ピアサポーター学生は右側の区画に常駐する

- ・ ピアサポーターの学生は、参加する低学年学生からの質問対応などが無い時間は各自の勉強時間に充てても構わないこととする
- 定期的に（15分に1回程度を目安）自習室全体を見渡して、困っている様子の学生が居る場合は自主的に声掛けをすること
- 勉強以外の相談を受けた場合も、可能な限り対応すること（難しい案件と判断した場合は、無理せずに監督教員に申し送ること）

図2. ピアサポーター育成に関するSD研修資料②

2. 活動の概要について

～学生指導に関するグループワークの実施～

対面授業においてアンケートで寄せられた改善を要する部分は、担当教員の対人コミュニケーション能力によるものが多かった。また、対面での授業に戻ったことを受けてクラス運営もまた対面環境に戻り、学生指導に関する教職員の関心も再び高まってきている。そのような状況を鑑みて、過去の指導事例に基づいた模擬事例を用いる形で学生対応に関するグループワークを実施した。参加した教員で3～4名の班を作成し、図3のような構成でディスカッションを行い、最後に班の代表者による発表を行う形で締め括った。

✓メンバーが個人ワークを終えた時点で開始してください!

ブレインストーミング: 15～20min

個人ワークシートを基に1人1分程度で【個人ワーク】の内容をご披露後、資料のA～Dを実践してください。

- A) 事象に対応するために必要なスキルを列挙
- B) どんな情報が必要で、どんな配慮が必要か?何を聞き取るか?
- C) 学内のどこに、どのように報告して対応?
- D) 『予防するために必要』なことを列挙

図3. 学生指導に関するグループワーク資料

3. 今後に向けて ～継続の先にあるもの～

今回はすべての班で同じ事例について議論したが、班によって着目したポイントが異なっている点は興味深く、班を構成する教員の組み合わせ次第で多様な観点が生まれることが確認できた。

来年度以降は上記取り組みを定例行事として定着させていきたいと考えており、これを繰り返すことで、全教員が多角的な視点を持ちつつ、学校としては一貫性のある学生指導を展開することが可能になると考えている。

桜の聖母短期大学

学務部長 坂本真一

桜の聖母短期大学は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会に源をもつ学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムの設置する学校であり、「カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」を建学の精神としている。

令和4年度の本学のFD活動は、「建学の精神に根ざした教育活動を実現するためのFD活動の実施」を目標に掲げて行った。この目標に基づく年度当初の計画は次の(1)～(4)とおりである。

(1) 授業改善アンケートを改訂し、本学独自のWeb方式の実施を計画する

(2) 授業改善を図るFD研修会の内容と方法を検証し、充実を図る

(3) 短大全教職員研修、短大新任研修を実施する

(4) 全学院^{*}新任研修、全学院^{*}研修に参加する

※全学院＝本学を設置する学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムは、福島県福島市、東京都調布市、福岡県北九州市に次のとおり複数の学校を設置している。本報告における「全学院」は、設置する学校のうち福島県福島市に所在する学校を指す。

【福島県福島市】桜の聖母短期大学、桜の聖母学院中学校・高等学校、桜の聖母学院幼稚園・小学校

【東京都調布市】マルガリタ幼稚園

【福岡県北九州市】明治学園小学校・中学校・高等学校

以下、今年度の具体的活動について報告する。

1. 本学独自のWeb方式による授業改善アンケートの実施

令和3年度まではFDネットワーク“つばさ”による授業改善アンケートを実施してきたが、今年度より本学独自のWeb方式の授業改善アンケートの実施を開始した。アンケート結果は授業担当教員へフィードバックし、各教員が自己点検・評価を実施して学務部に提出した。

2. 授業改善を図るFD研修会の実施

本学では、学習成果の可視化の一環として、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーと授業科目の関係を一覧にしてカリキュラムマップを作成し、そこに各授業担当教員が科

目レベルの学習成果達成度を記入して、教授ポートフォリオを作成している。この教授ポートフォリオと授業改善アンケートの結果および各教員による自己点検・評価を活用して、各学科・専攻において、各期末に授業改善を図るためのFDを実施した。また、前期終了後のFDを踏まえて、各学科・専攻において公開授業・授業参観を実施し、参観後の意見交換や授業参観報告書をとおして授業改善に取り組んだ。

3. 短大全教職員研修、短大新任研修の実施

①短大全教職員研修

情報教育支援室主催で、新学内情報基盤に関する学内教職員向け説明会を実施し、整備業者による新環境の説明を行った。

②短大新任教員研修

学務部主催で、学務に関わる新任教員研修を行った。

また、新任職員も含めた新任教職員に対する建学の精神に関する研修として、学長主催の研修を2回(うち1回は個別面談)、カトリック委員会主催の研修を2回行った。

4. 全学院新任研修、全学院研修への参加

①全学院新任研修

法人事務局による新任教職員対象の研修会が年度当初に行われた。短期大学採用の教職員も参加した。

②全学院研修

年度当初に、設置法人の主催により、全教職員が学院の建学の精神と教育方針を再確認し、新年度の教育重点目標の達成に向けて歩み出し、教職員一人ひとりが新たな気持ちで建学の精神を日々の教育の中に具現化していくことを目的として、批評家・随筆家・東京工業大学教授の若松英輔氏を講師として迎え、講演会(「カトリック学校の教職員に大切なことは?」)が開催された。本学教職員も参加した。

5. FD関連研修会への参加

一般財団法人全国大学実務教育協会主催の「FD教職員実践研究会」にFD担当部署である学務部委員会に所属する教員が参加した。また、学務部委員会において情報の共有を行った。

6. FD報告書の作成

今後、以上の今年度のFD活動の記録を「FD報告書」としてまとめる。2022年度末の完成を目標とする。

神奈川大学

教育支援センター

神奈川大学教育支援センターは、本学に入学する多様な学生に対する教育の質保証及び向上を使命とし、FD活動及び学生支援活動を行っている。コロナ禍での大学教育が3年目となった2022年度のFD活動について、次の通り報告する。

(1) 教育改善のための学生による授業アンケート

2002年度よりマークシート方式で実施していた授業アンケートについて、2021年度よりウェブ方式に変更した。2022年度は初年次ゼミナール科目（FYS）のみを対象に実施し、回答率71.1%となった。

[調査期間]

前学期 7月6日（水）～19日（火）
夏季集中 8月25日（木）～9月19日（月）

[アンケート総回答数 / 対象者数（回答率）]

前学期 3,245 / 4,483名（72.4%）
夏季集中 14 / 102名（13.7%）

(2) 遠隔授業に関する調査アンケート

2020年度から継続し遠隔授業に関するアンケートを実施した。過去2年間の調査アンケートから、遠隔授業の受講に関してはおおむね問題なく受講できていることを確認できたが、現在も一部の学生から遠隔授業に関する問い合わせが届くこともあるため、本調査では、遠隔授業に対して学生が感じている困りごとや課題を中心に設問を設定し、2023年度の授業編成の参考となるデータを収集することを目的に実施した。

[調査期間] 7月1日（金）～31日（日）

[回答数] 学生 838 / 17,813名（4.7%）

(3) 学修状況調査

就職支援部が1～4年次を対象に実施するアセスメントテスト「GPS-Academic」にFD・学生支援推進委員会が設定した独自設問を加えて4月にアンケート調査を実施し、集計結果に基づき総合的に分析し、各学部教授会にてFD委員による報告を行った。

(4) 2022年度の主なFD活動（まとめ）

[FD研修会]

- ・第1回FD研修会（新任教員第4回と同開催）
日時：11月16日（水）
内容：ユニバーサルデザインの理解～授業や研究、業

務に活かす“伝わりやすい”“読みやすい”資料・教材作成の視点～

- ・第1回新任教員対象FD研修会
日時：4月15日（金）～28日（木）（オンデマンド）
内容：本学基本方針、学修進路、FD活動、学生支援
 - ・第2回新任教員対象FD研修会
日時：5月25日（水）
内容：産官学連携・研究推進体制、TA・SA
 - ・第3回新任教員対象FD研修会
日時：9月28日（水）
内容：発達障害と精神障害の理解、合理的配慮
 - ・第8回ヨコハマFDフォーラム（※市内4大学共催）
日時：12月10日（土）
内容：新型コロナ禍の経験から、あらためて学生支援について考える—コロナ禍の学生生活と学修への影響—
- [学外協議会・研修会等への参加]
- ・第29回FDネットワーク“つばさ”FD協議会
日時：6月28日（火）
 - ・全国私立大学FD連携フォーラム シンポジウム
日時：6月18日（土）
内容：新学習指導要領を踏まえた大学教育のあり方～2025年度入学生に向けた準備
 - ・令和4年度山形大学教員研究会 第24回基盤教育WS
日時：9月22日（木）
内容：直接評価指標を用いた授業・カリキュラム改善の実践
 - ・全国私立大学FD連携フォーラム 懇談会
日時：1月27日（金）
内容：コロナ禍3年間の経験を踏まえた授業およびFD活動の取り組みと課題
データを活かしたFD・教育改善の取り組みと課題
 - ・第28回FDフォーラム
日時：2月18日・23日・24日・25日
内容：挑×選 多様な学びの支援に求められる挑戦と選択
 - ・第29回大学高等教育研究フォーラム
日時：3月15日（水）・16日（木）
- [学生のFD参画]
- ・第8回ヨコハマFDフォーラム（学生登壇発表）
日時：12月10日（土）
発表：コロナ前後における学生生活の意識・行動の比較とそれらが与える影響（理学研究科M2年）
 - ・学生UD委員会主催神大トークセッション
日時：1月11日（水）

明海大学

浦安キャンパス FD・SD 委員会
FD・SD 委員長 高野 敬三

明海大学浦安キャンパスにおける FD・SD 活動は、浦安キャンパスの共通の課題に取り組む全体の活動と、各学部・学科・教育センターがそれぞれの専門領域と問題点を見据えて行う活動の 2 種類が例年行われてきた。

2022 年度は、浦安キャンパス FD・SD 委員会が中心となって行う「2022 年度浦安キャンパス FD・SD 研修会」を全 2 回実施した。また、「授業評価アンケート」について、学部では前学期 2 回、後学期 2 回の計 4 回実施し、大学院では 1 回実施した。

本稿では、併せて各学部・学科・教育センターによる FD・SD 活動についても報告する。

1 第 1 回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

- (1) 開催日時：2022 年 8 月 3 日（水）13:00～14:30
- (2) テーマ：「科研費について（その重要性和意義）」
- (3) 報告者：

副学長 藤内 祝
経済学部 教授 影山 純二
不動産学部 准教授 小松 広明
保健医療学部 講師 森下 志穂
庶務課 課長補佐 前田 洋祐

2 第 2 回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

- (1) 開催日時：2023 年 3 月 8 日（水）14:40～16:10
- (2) テーマ：「2025 年度以降入学生が高校までに学ぶ情報教育・データサイエンス教育について」
- (3) 講演者：

東北学院大学 文学部
教授 稲垣 忠

3 授業評価アンケート（学部）

- (1) 実施時期：年 4 回
ア 前学期第 1 回
2022 年 5 月 16 日（月）～5 月 28 日（土）
イ 前学期第 2 回
2022 年 7 月 4 日（月）～7 月 16 日（土）
ウ 後学期第 1 回

2022 年 10 月 10 日（月）～10 月 22 日（土）

エ 後学期第 2 回

2022 年 12 月 12 日（月）～12 月 24 日（土）

- (2) 実施授業科目：専任教員及び非常勤教員が担当する学部授業科目。（ゼミの授業科目、履修者数 5 名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また、1 教員あたり同一名称科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加できる。）

- (3) 内容及び評価方法：2022 年度は、対面授業でのアンケート内容とした。

評価方法は、指導の適切さ等に関するもの（配布物の読みやすさ、課題の量、教員の授業に対する意欲や熱意等）及び学生の学びへの準備と深まり等に関するもの（授業 1 回あたりの予習・復習時間、授業に積極的に取り組んだか等）について、学生が匿名での五段階の評価をしている。その他、自由記述欄も設けている。

- (4) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

- (5) 教員へのフィードバック

各 FD・SD 委員が現状分析と授業改善策を検討した上で、FD・SD 委員会ですべての結果分析及び改善策をまとめ（総論）、FD・SD 委員長から各学部・学科・教育センターを通じて各教員に知らせている。

- (6) 実施結果等

ア 前学期第 1 回：616 科目対象／回答率 52.7%
イ 前学期第 2 回：620 科目対象／回答率 41.5%
ウ 後学期第 1 回：627 科目対象／回答率 38.2%
エ 後学期第 2 回：629 科目対象／回答率 30.2%

4 授業評価アンケート（大学院）

- (1) 実施時期：年 1 回

2022 年 7 月 4 日（月）～7 月 16 日（土）

- (2) 実施授業科目：専任教員が大学院で担当している講義科目（特別演習、特別研究及び履修者 2 名以下の科目は除く。）のうち、履修登録者数が最多の 1 科目

- (3) 内容及び評価方法：教員の指導の適切さ等に関するもの（説明の分かりやすさ、教員の授業に対する意欲や熱意等）及び学生の学びへの準備と深まり等に関するもの（授業 1 回あたりの予習・復習時間、興味・関心の変化、満足の度合い等）について学生

が匿名で五段階評価をして回答する。その他、自由記述欄も設けられている。

(4) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

(5) 教員へのフィードバック

大学院授業評価アンケート専門委員会で全体の結果分析及び改善策をまとめ、各教員に知らせている。

(6) 実施結果等

19 科目対象 / 回答率 83.9%

次に、2022 年度に各学部・学科・教育センターが独自に実施した FD・SD 活動、特に研修会やワークショップ等について紹介する。

1 外国語学部日本語学科

(1) 日本語学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 8 月 5 日（金）

イ 講演者：神吉 宇一 氏（武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科准教授）

ウ テーマ：日本語教育に関する政策の動きと教師の資格について

(2) 日本語学科 FD・SD 活動

ア 開催日：2023 年 1 月 30 日（月）～2 月 6 日（月）

イ テーマ：インストラクショナルデザインに関する研修

2 外国語学部英米語学科

(1) 英米語学科 FD・SD 活動

ア 開催日：2022 年 10 月 13 日（木）

イ テーマ：語彙力強化法に関する研修会

(2) 英米語学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 11 月 17 日（木）

イ 講演者：堀 建哉 氏（国際ビジネスコミュニケーション協会）

ウ テーマ：各種英語検定の特徴、出題傾向及び指導法の分析に関する研修会

3 外国語学部中国語学科

(1) 中国語学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 9 月 13 日（木）

イ 講演者：山本 利香 氏（株式会社アイリスファーマ・管理栄養士）

ウ テーマ：習熟度が低い学生の指導法を探索する

(2) 中国語学科 FD・SD 活動

ア 開催日：2022 年 12 月 8 日（木）、2023 年 1 月 12 日（木）

イ テーマ：中国語検定過去問題の調査と分析

4 経済学部経済学科

(1) 経済学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 9 月 1 日（木）

イ 講演者：栗田 晴行 氏（NHK 放送研修センター）

ウ テーマ：適切で効果的な「伝え方」について

(2) 経済学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2023 年 3 月 7 日（火）

イ 講演者：小巻 泰之 氏（大阪経済大学教授）

ウ テーマ：EBPM の EB について考えるセミナー

5 不動産学部不動産学科

不動産学科 FD・SD 研修会

(1) 開催日：2022 年 8 月 4 日（木）

(2) 講演者：遠藤 信一 氏（東京工業大学附属科学技術高等学校教諭、東京都立産業技術高等専門学校講師）

(3) テーマ：高等学校における金融教育の実態把握

6 ホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・ツーリズム学科

(1) ホスピタリティ・ツーリズム学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 8 月 4 日（木）

イ 講演者：田中 淳夫 氏（銀座ミツパチプロジェクト副代表）

ウ テーマ：養蜂活動や養蜂による地域連携活動について

(2) ホスピタリティ・ツーリズム学科 FD・SD 研修会

ア 開催日：2023 年 2 月 22 日（水）

イ 講演者：岩井 琢磨 氏、奥谷 孝司 氏（株式会社顧客時間共同 CEO）

ウ テーマ：デジタル時代の新しいマーケティングの基本

7 保健医療学部口腔保健学科

口腔保健学科 FD・SD 研修会

- (1) 開催日：2022 年 5 月 16 日（月）
- (2) 講演者：庄司 洋史 氏（医歯薬研修協会）
- (3) テーマ：歯科衛生士国家試験の現状と対策

8 総合教育センター

総合教育センターFD・SD 研修会

- (1) 開催日：2023 年 2 月 28 日（火）
- (2) 講演者：島崎 雅史 氏（株式会社リアセック）
- (3) テーマ：PROG の結果からみえる本学学生の特徴
と課題

9 多言語コミュニケーションセンター

多言語コミュニケーションセンターFD・SD 活動

- (1) 開催日：2022 年 7 月 1 日（金）～2023 年 2 月 28
日（火）
- (2) テーマ：アクティブラーニングによる深い学びの
ある授業の設計と実践に関する研修

10 教職課程センター

- (1) 教職課程センターFD・SD 研修会

ア 開催日：2022 年 12 月 5 日（月）

イ 講演者：青木 一真 氏（東京都立国際高等学校
指導教諭、IBDP コーディネーター、文部
科学省 IB 教育推進コンソーシアム Air
Campus 実行委員）

ウ テーマ：国際バカロレア教育の理念と手法の活用

- (2) 教職課程センターFD・SD 活動

ア 開催日：2023 年 2 月 4 日（土）

イ テーマ：DX 時代の授業づくりについて考える-教
育の原点と「ポスト学制 150 年」-

東北生活文化大学・ 東北生活文化大学短期大学部

FD委員 立花 布美子

本学では、FD委員会が中心となってFD・SD活動の推進を目指しており、令和4年度におけるFD活動を以下の通り行った。

1. 授業改善アンケートの実施

【実施期間】

前期：令和4年7月25日～8月12日

後期：令和5年1月18日～2月3日

例年同様、前期・後期末（授業最終日～期末試験期間最終日）に専任、非常勤を問わず受講者数10名以上の授業科目での実施を依頼した。（ただし受講者数10名未満で実施した授業科目のアンケート結果については参考に留めるとしている。）

令和3年度よりオンラインによる授業改善アンケートを実施している。オンラインでの実施は紙媒体での実施に比べて各教員の授業時間の確保や、回答側となる学生の利便性、またFD委員の集計作業の軽減とはなっている。但し、以前の紙媒体によるアンケート形式に比べ回答率が低下しているため、教員、学生両者へのアンケート実施への周知徹底を含め、学生が回答しやすいシステム内容の検討等が課題となっている。

また、実施アンケート集計結果の返却方法についても今後の回答率の向上へと繋がるよう検討すべき課題となっている。

2. 公開授業の実施

【実施期間】

前期：令和4年6月13日～6月17日

後期：令和4年11月14日～11月18日

例年と同様に実施期間を設け、専任、非常勤を問わず授業公開を依頼した。公開した授業への積極的な参加をお願いし、参加後は担当教員と参加教員との情報交換、検討会を行うための「参観メモ」を活用している。実施期間中の授業内容に参観困難な科目がある場合は、事前に告知している。

3. 「FDセミナー」「FD・SDセミナー」の実施

本学では、教員間の教育・研究に関する相互理解を

図るための「FDセミナー」と、教職員の研修の機会としての「FD・SDセミナー」を実施した。全教員が参加できるように、原則として教授会終了後に対面で実施したが、セミナーの開催形態（オンラインまたはオンデマンド配信による参加）について今後の検討課題としたい。

「FDセミナー」

① 新任教員による研究・教育の紹介

令和4年6月10日（金）3名

令和4年7月1日（金）3名

② 前年度授業評価アンケートの評価優秀者による授業概要、工夫等の紹介

（各学科専攻より1名ずつ 3名発表）

令和5年2月17日（金）

③ 学内研究奨励賞受賞者および教育改革推進研究奨励賞受賞者による研究発表

令和5年3月20日（月）

学内研究奨励賞受賞者 2名

教育改革推進研究奨励賞 2名

「FD・SDセミナー」

① 「大学設置基準改正とその対応」

令和5年2月7日（金）

その他として、FDネットワーク“つばさ”FD協議会（令和4年6月28日（火））にオンライン参加した。

4. FD活動報告書の編集と刊行

令和4年度の授業改善アンケートの評価に関する報告や、公開授業または教員セミナーでの発表を「FD活動報告書」として編集し、刊行予定である。また、FDに係る情報公開として、私立大学等改革総合支援事業での外部への公開が要求されているため、今後公開を前提その内容などを検討していく。

今後の展望

FD活動の大きな課題として、授業改善アンケートの実施方法を検討していく必要がある。学生からの声ではアンケート実施の必要性が問われる意見が一部見られた。より多くの学生達の意見を反映できるよう引き続き検討していき、来年度以降の授業改善に繋げていきたい。また、FD活動を通して教育効果の向上を目指し、全学的に連携を深めるよう各課題に取り組んでいきたい。

国際武道大学

FD部会長 丸橋利夫

本学のFD・SD活動は、大学の質保証との連携を図るため、「内部質保証検討委員会」の下に配置されている「FD部会」を中心に企画、運営を行っている。2022年度の主なFD・SDの取り組みは、次の3点である。

1. FD・SD研修会の開催

2019年度以来となる対面開催での研修会開催に至った。本学の安心・安全な大学づくりとして行ってきたBLS研修が再開できたことは、体育系大学に従事する大学教職員として必要不可欠な知識及び技能の習得であり、大変有意義な研修となっている。

- ①BLS（一次救命処置）講習会（本学山本利春教授）
- ②ポストコロナの学生生活とメンタルヘルス（本学学生相談室・臨床心理士 福島渉氏）

2. 合同研修会の開催

「体育系大学FD・SD研究会」及び「本学健康管理センター」との合同研修会を開催した。本研究会は、体育系大学における教育に関する効果的な手法を調査・研究し、会員相互及び社会と広く研究連携することで、教育研究の質保証・向上を図ることを目的としている。

《合同研修会》

FD部会と健康管理センターの企画として、「2022年度スポーツ医科学講習会兼FD・SD研修会」を開催した。

本学山本利春教授による「国際武道大学における安全・健康管理に関する取り組み」を、オンディマンド開催にて、感想はオンラインによる提出とし、学内における安心安全な大学づくり、管理体制を再確認する機会となった。

3. 各種アンケート調査

①学生による授業評価アンケートの実施

大学ポータルサイトを活用した学生による「授業評価アンケート」を実施した。自由記述を重視するアンケートとしており、学生たちから多くの貴重な意見が寄せられた。

②卒業時アンケート調査の実施

オンラインアンケートフォームを活用し、卒業直前の学生を対象に「卒業時アンケート調査」を実施した結果、8

割を超える回答を集めた。また、「国際武道大学で学んでよかったと思いますか」という回答に対して、「とてもよかった、よかった、まあまあよかった」の回答が、91%という高い数値を得る結果となった。

◎2022年度におけるFD・SD活動は次のとおり

- 5月 ・FDネットワーク“つばさ”FD協議会
- 6月 ・前期「学生による授業評価アンケート」の実施
- 11月・後期「学生による授業評価アンケート」の実施
- 3月 ・卒業時アンケート実施
- ・体育系大学FD・SD研究会及び学内FD・SD研修会の開催①
- ・スポーツ医科学講習会との合同研修会の開催
- ・体育系大学FD・SD研究会及び学内FD・SD研修会の開催②



いわき短期大学

FD委員 福井 朗子

本学はFD活動の一環として、学生との意見交換会を実施しています。学生と大学が直接対話できる貴重な機会となっています。2021年度は、春学期・秋学期に各1回、2022年度は春学期に1回開催しました。1、2年ごとにわかれ実施しています。学生の意見は各学年のゼミ内で集約し、ゼミ代表者が学長や短大事務長など教職員代表と意見を交わします。今年度は、「いわき短期大学をより良い大学にするために」をテーマに意見交換会を行いました。学生からは、授業方法、施設や設備、大学指定ジャージについてなどさまざまな意見があがりました。寄せられた意見や要望を短大運営に反映するよう努めるとともに、今後も継続していく予定です。併せて令和5年度は、短大の研究活動の質を高めるFD活動を展開する予定です。



群馬パース大学

FD委員 中下富子

本学は3学部7学科で構成され、看護師・保健師・助産師・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士の各国家資格を有する必要な知識と高い技術を学修する保健医療専門職を育成している。

令和4年度もパンデミック対応が継続され、病気の脅威を的確に捉え、臨機応変な対処を心がけてきた。

以下のようなFD活動を推進したので、報告する。

1. 学生による授業アンケート

全学科全履修者を対象に、「授業項目（授業中身の対する評価）」「担当教員（教員への評価）」「自分自身（学生自身に対する評価）」に分類された質問項目について、学生が自由に期間内に入力できるよう設定した。

集計結果は、外部委託業者に集計を依頼したことにより、今年度は新たに集計データのレイアウトや集計項目を改善し、教員が内省して授業の改善方法を見出しやすいように検討を進めてきた。

しかしながら、前期授業アンケートの回答率は、講義を中心とした授業（主に1年生）では約45.0%となるが、全体回答率（1~4年生）は、前年度21.6%から高くなってはいるものの28.2%と低い状態であり、学科によってもバラつきがみられた。授業改善につなげるためにも回答率を高める方法をさらに検討する必要性が確認された。

2. 学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは、学科単位で実施された。

コロナ禍での実習であり、病院でのクラスターの発生、学生自身の感染や濃厚接触者となった場合、実習が予定せず中止となることも決して少なくなかった。

しかし、学科によっては、病院での実習ができた場合と、実習ができなかった場合（学内実習）、両者の場合の評価アンケートを作成し実施した。

3. ピアレビュー

学生の能動的な学修への参加や思考を深める有効なアクティブ・ラーニングの方法が求められている。他教員の講義や演習から直接的に学ぶピアレビューについて、今年度は、重点を置いて、毎月のFD委員会の中で実施率を確認し、FD委員が率先してピアレビューを実施するとともに、

他教員へも実施を呼びかけてきた。

その結果、今年度ピアレビューの実施率は43.9%と昨年度より10%程度上昇したことが確認された。来年度もピアレビューについて前期中の早期段階から意義を発信し、ピアレビューの実施とその前後を含め、高め合える教員相互の関係性を構築していきたい。

4. 学生FD推進

山形大学の学生によるFD会議がZoomによって開催された。しかし、本学は実習等の期間に入っており、本学の学生は参加することができなかった。現状、本学内において学生のFD活動は新型コロナウイルスの影響等により、活動休止状態となっている。

5. FD研修会

大学全教員を対象として群馬県教育委員会デジタル教育室長の清水義博氏よりご講演をいただいた。テーマ「一人一台端末を活用した教育活動の現状」について、一貫性のある系統的なデジタル教育を目指す小中高等学校教育の取組などを学ぶことで、大学教育におけるデジタル教育の在り方を再認識することができ、受講者からも良好な評価が得られた。

6. 教育研修体系による研修

大学教員経験5年目以内の教員を主に対象としてファーストレベルFD研修会を開催した。埼玉大学教育学部准教授七木田文彦氏に『教えること』『学ぶこと』に必要なことは何か」というテーマのもと、ご講演をいただいた。教員にとって『教えること』、学生にとって『学ぶこと』について新たな視点で具体的に深めることができ、受講者から好評を得ることができた。

また、上記5、6の両研修会とも実習指導等で研修参加が不可能な場合には、動画配信により視聴することを可能とした。そのため、対象者全員が受講することができた。

7. FDネットワーク“つばさ”令和4年度第「週刊・授業改善リレーエッセイ」への投稿について

リハビリテーション学部言語聴覚学科浅見知市郎教授にご執筆いただき、掲載された。

より良い「学びのコミュニティ」のあり方を考える取り組みを推進する FD (Faculty Development)

SUFD Report 2022

令和4(2022)年度 仙台大学FD年次活動報告



報 告 REPORT

本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な活動は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス・ルーブリック作成の支援、(4) FD活動の広報・周知である。

(1) 学内FD研修会の企画運営実施

本年度は、次の4つの研修会を実施した。

① 新任教員FDセミナー

4月4日(月)に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

② 学修状況調査の概要報告研修会

本学では6月8日(水)から6月22日(水)にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生に

Webアンケートにて実施した。この調査結果については、9月20日(火)に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

③ 授業改善FD研修会

9月20日(火)にICT教育推進委員会と共催で研修会を開催した。講義型、実習型に分けて2021年度の授業評価アンケートが高い先生に講師を依頼し、実際のオンライン授業での活用法などの説明を行い、ICT教育推進委員会からは、ICTツールの活用を中心に、説明を行った。

④ 授業づくりのためのFD研修会

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「体育系大学としてのオンライン授業の可能性とこれから」をテーマに掲げ、12月13日（火）に研修会を開催した。対面で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、ICTツールを活用し、ディスカッションを行った。

(2) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施している。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン授業が主だったことから、Webアンケートにより実施した。この結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

(3) シラバス・ルーブリック作成の支援

教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバス・ルーブリックとするために、本年度も教員に配布しているシラバス・ルーブリック作成要領（「シラバス・ルーブリック作成の手引き」）を加筆修正し、シラバス・ルーブリック入力の大変な変更点については、別途、資料を作成し共有を行った。なお、シラバス・ルーブリックは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

(4) FD活動の広報・周知

① FD広報冊子の作成

本学では、FD広報冊子（SUFD Report）を年に1度発行している。本年度発行するもので第9号となる。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

②学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、1名の委員が「第24回基盤教育ワークショップ」および、「山形大学データサイエンス教育研究推進センター主催のFD研修会」にそれぞれオンラインにて参加した。



第3章

F D 協議会

第29回 FDネットワーク“つばさ”FD協議会

帝京平成大学
東京家政学院大学
神奈川大学
高岡法科大学
山形大学

はじめに

令和4年度前期の協議会は、令和4年6月28日(火)に、第29回FDネットワーク“つばさ”FD協議会をオンラインにより開催し、24校41名の出席があった。

はじめに、栗山FD運営協議会議長から、FDネットワーク“つばさ”の令和3年度の事業計画の変更などについて説明があった。

次いで、第2部の事例紹介では、北翔大学より「令和4年度学生FD会議について」紹介があった。

(1) スケジュール

日時：令和4年6月28日(火) 15:00～15:55

方法：Zoomを利用したオンライン開催

[第一部：協議会] 15:00～15:15

- 1 FDネットワーク“つばさ”令和4年度事業計画の変更について

[第二部：事例紹介]15:15～15:55

「令和4年度学生FD会議について」

北翔大学 教育文化学部芸術学科 教授

FD支援委員会 委員長 松澤 衛

学生FD 北翔アンビエント 眞鍋 有希

(配布資料)

資料 参加者名簿

資料1 令和4年度FDネットワーク“つばさ”事業計画

資料2 令和3年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」執筆担当校

(案)

参考資料1 FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧

参考資料2 FDネットワーク“つばさ”協議会要項

(2) 出席機関一覧

FDネットワーク“つばさ”

【加盟校】

札幌大学

札幌学院大学

北翔大学/北翔大学短期大学部”

青森中央学院大学

青森中央短期大学

八戸学院大学/八戸学院大学短期大学部”

富士大学

仙台大学

東北生活文化大学/東北生活文化大学短期大学部”

山形県立保健医療大学

山形県立米沢栄養大学

山形県立米沢女子短期大学

東北芸術工科大学

鶴岡工業高等専門学校

東北文科大学/東北文科大学短期大学部

筑波技術大学

群馬パース大学

明海大学

国際武道大学

FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧

令和5年3月31日現在

<北海道>

1	札幌大学 札幌大学女子短期大学部
2	札幌学院大学
3	北翔大学 北翔大学短期大学部
4	稚内北星学園大学

<東北>

5	山形大学
6	青森公立大学
7	青森県立保健大学
8	山形県立保健医療大学
9	山形県立米沢栄養大学
10	会津大学
11	八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部
12	青森中央学院大学
13	仙台大学
14	東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部
15	仙台白百合女子大学
16	東北芸術工科大学
17	東北文教大学 東北文教大学短期大学部
18	東日本国際大学
19	富士大学
20	青森中央短期大学
21	仙台青葉学院短期大学
22	宮城学院女子大学
23	山形県立米沢女子短期大学
24	羽陽学園短期大学
25	会津大学短期大学部
26	桜の聖母短期大学
27	いわき短期大学
28	鶴岡工業高等専門学校

<関東>

29	筑波技術大学
30	茨城県立医療大学
31	群馬パース大学
32	明海大学
33	文教大学
34	人間総合科学大学
35	日本保健医療大学
36	国際武道大学
37	帝京平成大学
38	了徳寺大学
39	北里大学
40	東京家政大学 東京家政大学短期大学部
41	東京家政学院大学
42	神奈川大学
43	関東学院大学
44	湘南医療大学
45	嘉悦大学
46	デジタルハリウッド大学

<中部>

47	高岡法科大学
----	--------

<九州・沖縄>

48	沖縄県立芸術大学
----	----------